

第63回 チョウゲンボウ

カコウちゃん かほくがたチルドレン

ヒロ

獲物には
紫外線で見える
成分があつて…



ホバリングして
獲物をさがす
チョウゲンボウ

チョウゲンボウの
目には
それがわかるのだ



すごい
能力!

…で
その成分って
なんなの?

獲物の居場所を
見つけるのに
便利なんだよ



オシッコとか
フンとかに
ある成分!

オシッコ
目印があ

また、特に雄は、頭部がグレーで背中がオレンジをしており、飛んでいるときは腹面が白く、尾にきれいにストライプが入り、猛禽類の中でも色彩豊かな美しい鳥です。飛翔形もとても格好良く、安定したホバリングもみごとです。

チョウゲンボウの仲間にはコチョウゲンボウという少し小柄な種もいて、河北潟でも時々みることが出来ます。また、かつてはアカアシチョウゲンボウという珍しい種が河北潟に飛来したことがありました。

チョウゲンボウの食性は広く、ネズミ類の他、小鳥やモグラ、カエル、トカゲ、甲虫、トンボなどを食べます。河北潟にチョウゲンボウが一定数いるということは、チョウゲンボウの餌となるこれらの動物も豊富にいるということが考えられます。チョウゲンボウは、河北潟の生物相の豊かさと多様性を指標する鳥ともいえます。河北潟周辺では、津幡や宇野気方面で特に農地が減少傾向ですが、チョウゲンボウの餌となる動物は農地に依存していることから、今後の個体数の推移が気になります。(文 高橋 久)

いつも不思議な名前だと思うのですが、由来は不明とのこと。漢字で「長元坊」と書き、僧侶の名前であるという説や、トンボのように飛ぶ鳥だから「鳥ゲンザンボー」（「ゲンザンボー」はトンボのこと）と呼ばれたという説などがネット検索で出てきます。「ゲンザンボー」とは聞き慣れない言葉ですが、茨城県の方言とのことでした。

昔はタカの仲間（タカ目）とされていましたが、ハヤブサの仲間はタカ目からはずいぶん離れた系統であることが分かってきて、現在はハヤブサ目に含まれています。ハヤブサよりはずっと小さく、ハトほどの大きさです。飛び方も軽快で、いかにも軽そうに宙を舞います。またホバリングが得意で、長い時間、空中の一定の場所に留まっているのをよく見かけます。これは餌を探している行動で、地上にいるネズミなどの小動物を見つけると急降下して捕らえます。

本来は、断崖の横穴や岩棚、樹洞などに営巣しますが、最近では建物を利用するケースが多く、河北潟周辺でみられるチョウゲンボウのほとんどは、こうした人工物を利用して繁殖していると思われます。よくあるのは、工場などの折板屋根を利用している例で、ジグザグの鋼材の山部分と梁の間にある隙間に巣をつくります。巣といっても巣材がなくそのまま卵を産み付けることもあります。また、農地の作業小屋のトタンの隙間から出入りしているのをみたことがあります。ちょっとした隙間があれば営巣できるようで、河北潟周辺にはそれなりの数のチョウゲンボウが繁殖していると思われます。

小さいこともありますが、丸顔にぱっちりとした大きめの眼が特徴的で、猛禽類の中ではとても可愛く見えます。また、